



- 多可町歴史街道推進協議会委員
 宮崎 和明
 川口 昭三
 藤井 伊都子
 藤井 英延
 筒井 かつ子
 西田 公世
 門脇 謙一
 佐藤 俊樹
 埴岡 真弓 (播磨学研究所研究員 (コーディネーター))
- 紙芝居制作協力者
 村上 裕介 (兵庫教育大学 体育・芸術教育学系准教授)
 吉田 侑右 (兵庫教育大学 大学院1年次)
- 紙芝居制作助言者
 宮原 文隆 (多可町教育委員会・那珂ふれあい館館長)
 安平 勝利 (多可町教育委員会・那珂ふれあい館課長補佐)

りょんりょん

2011年3月初版発行

16場面

発行 多可町
 〒679-1192
 兵庫県多可郡多可町中区中村町123番地
 電話 (0795)32-2380(代)

編集 多可町歴史街道推進協議会

印刷 ヤタベ印刷

りょんりょん

①

やちよくなかむら
 八千代区中村に 貴船神社という 神社があります。
なかもら さかもと よこや しもむら
 中村・坂本・横屋・下村という 四つの地区の氏神さ
 まです。

しょうがくせい おとこ こ
 小学生の 男の子が おじいさんと おまいりに き
 ました。

男の子「おじいちゃん、『今度の秋祭りに、ゲイゲイせな
 あかんぞ』と お父ちゃんに いわれたんやけど」
 おじいさん「そうか、りょんりょんで ゲイゲイ するん
 か。それは よかったなあ」

②

男の子「ゲイゲイゆうて、なんや。それになんで

あきまつ秋祭りのこと りょんりょんて いうんや」

おじいさん「そうやなあ、そんなら りょんりょんのこ

とから はなそか。むかしからの い言 つたい伝えや。

わしらが やちよすんどる のまだに八千代の ぬま野間谷は、 沼沼の

たに谷、 ぬまだに沼谷が のまだになまって 野間谷といわれるように野間谷といわれるように

なったそうや。 とちがらそれくらい じゅるいじゅるい 土地柄やっ土地柄やっ

たんやて」



③

おじいさん「だいぶん むかしの ことや、 猿田彦さるたひことい

う えらい神かみさんと 獅子ししが、天てんから野間谷のまだにの 天あま

船ふねに おりて きたんやて」

男の子あまふね「天船あまふねて？」

おじいさん「貴船神社きふねじんじやの お祭りまつは、坂本さかもとと 中村なかむらと 横よこ

屋やと 下村しもむらの 四よっつで するやろ。この 四よっつあわ

せて、むかしは 天船村あまふねむら いうてたんやで」

男の子「そうなんや」



④

おじいさん「そいでな

さるたひこ 猿田彦は、あまふね 天船の とち 土地をはかり

はじめたんや。

さるたひこ りよんりよんの

てんぐ 天狗はな、こ

さるたひこ の猿田彦いう

かみ 神さまの あまふね すがたを あまふね あらわしとん

ねや」

男の子「ふーん」



⑤

おじいさん「猿田彦が 土地を きちんと はかったあと、

こんどは 獅子が まず 水をながす 溝を ほっ

たんや」

男の子「獅子は 力が つよいねんな」



⑥

おじいさん「それだけや ないで。そのあと、獅子は

あばれ まわって つぎつぎに 土地とちを たがやし

て いったんや」

男の子「はでに あばれたんやろうな」



⑦

おじいさん「こないして 天船あまふねの 土地とちは よう こえた

りっぱな 土地とちに なった。 獅子ししは その 土地とちを

村むらのもんに わけあたえて くれたそうや。」

男の子「獅子ししは ええやつやなあ」

おじいさん「ほんまやな」



⑧

おじいさん「それから、獅子はまずマメ作りをお
しえてくれたんや」

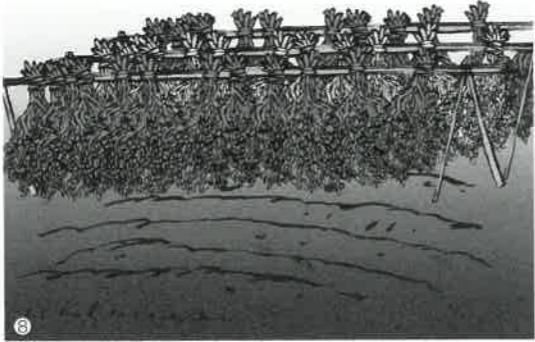
男の子「獅子はなんでもようしっとなのやなあ」

おじいさん「そうやな、獅子が上手におしえてく

れたんで、マメは豊作やった。それから天

船のもんは安楽にくらせるようになったんや

て」



⑨

男の子「ぼく マメ すきなんや、おいしいもん。秋祭あきまつ

りの ときも みんなに くばってるわ」

おじいさん「あの マメ、 「獅子ししマメ」と いうやろ。

獅子ししが マメ作りづくを おしえて くれたから、そう

よぶねや。 そいで、 獅子舞ししまいが その獅子ししを あ

らわしとるのや」

男の子「へえー」



おじいさん「貴船神社の 秋祭りはな、 天船のもんが

しあわせに くらせるように してくれた 猿田彦

と 獅子を たたえる 祭りや」

男の子「天狗は 猿田彦、 獅子舞は 獅子か。ともだ

ちに おしえたるっ」と

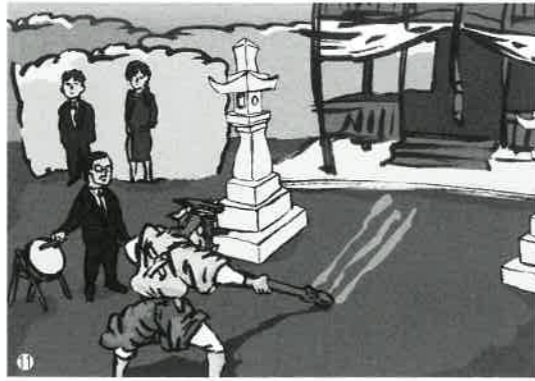


おじいさん「天狗は、一番はじめにもっとる槍で

地面に 三本線をひくやる。あれは、猿田彦が

土地を はかるすがたを あらわしてるんや」

男の子「それも おしえて やらな」



おじいさん「その後、^{あと}みんなが 『りょんりょんりょん』と ^{ごえ}かけ声をかけて、^{てんぐ}天狗がたてに よこに とびはねるやろ。あれは ^{とち}土地を たがやしとるすがたを あらわしとるんや」

男子「ふーん」

おじいさん「『りょんりょんりょん』いう ^{ごえ}かけ声から、^{あきまつ}秋祭りのこと、 『りょんりょん』て ^{ごえ}いうようになったらしいで」



男の子「あ、 そんななら、 獅子舞ししまいが 天狗てんぐと おんな

じように とびはねるのも、 土地とちをたがやしてる

のんちゅうか」

おじいさん「そのとおり、 さすが わしの 孫まごや、のみ

こみが 早いはや！」

男の子「そしたら、 ゲイゲイは？」



おじいさん「おまえらが ササラ ならして、 おとなが

太鼓^{たいこ} たたくやろ。 ゲイゲイ いうのは、 あの

ササラの 音^{おと}から きたんや というな」

男の子「へえ。 けど、 ササラやら 太鼓^{たいこ}やらならし

て 立^たったり すわったり。 あれ なんや」

おじいさん「むかし、 田植^{たう}えのとき、 米^{こめ}が たくさん

み^{かみ}のるように いうて 神^{いの}さまに祈^{かみ}って おどった

んやて。 田^{でんがく}楽^{がく}いう おどり^{ななひやくねん}でな、 七^{ななひやくねん}百年^{ねん}も 前^{まえ}

から あったそうや。 ゲイゲイは その なごり

らしい」



男の子「マメのつき次に、米をこめつくったんやなあ。

けど、あきまつ秋祭りはかみ神さんだらけやな。てんぐ天狗は

さるたひこ猿田彦のかみ神さんやし、ししまい獅子舞もかみ神さんみたい

なしし獅子やし。かみゲイゲイをみとるかみ神さんも

いるやろ」

おじいさん「そのとおりや、うまいこというわ。さすが

わしのまこ孫や」

男の子「またや！そやけど、ようわかったわ。おじ

いちゃん、ありがとう。りょんりょんのこと、あした

がっこう学校でみんなにおしえたるわ」



「りょんりょん」ということは、へいあんじだい平安時代から
きょうと京都の おおきなおおきな じんじゃ神社やお寺の お祭りお祭りでおこわれ
 ていた、りゅうおう龍王の舞の「りゅうおう」がなまって
 つたえられたものだといわれます。

きふねじんじゃ貴船神社の あきまつ秋祭りは、りゅうおう龍王の舞、かぐら神楽、でんがく田楽のな
 がれを くむくむ でんとうげいのう伝統芸能を のこすのこす、きちょう貴重な文化財とし
 て しられていますしられています。

いつまでも たいせつたいせつに まもっていきたいまもっていききたい、たかちょう多可町
 の お祭りお祭りの ひとつひとつです。

おしまい

